

教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
<p style="text-align: center;"><b>税に関する教育</b></p> <p style="text-align: center;">～国税庁HP「税の学習コーナー」の活用～</p>	高養	社会 3年 (社会)	西川隆行

<ねらい>

高等養護部の社会科の授業は、自分たちの住んでいる社会の様子や仕組みなどの学習を通して、社会生活をより快適に送るための能力や態度、卒業後の生活に必要な能力の習得を目的としている。

本題材のねらいは以下のとおりである。

- 私たちの生活に必要な公共の施設やサービスの多くは税金でまかなわれていることが分かる。
- 税金の種類や集め方（納め方）について知る。
- 税金の使い道について考える。
- 高齢化社会の進展などにより、どのような影響があるのかについて考える。

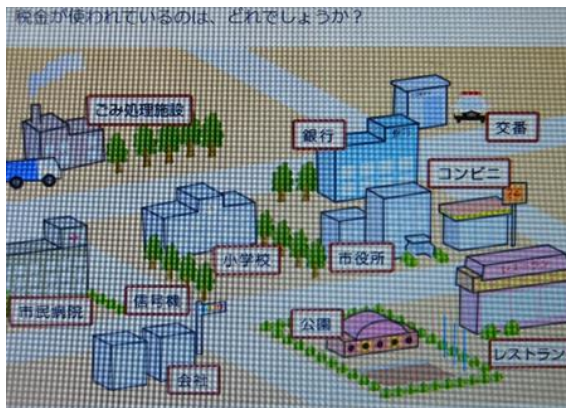
<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

本題材では、国税庁HP「税の学習コーナー」を活用して、生徒が興味関心をもって学習できるように計画した。

(1) 導入「税金ってなんだろう」（一時間）

私たちの生活に必要な公共の施設やサービスの多くは、税金でまかなわれていることが分かるように、「税の学習コーナー（学習・入門編～はじめに）」のページ（図1）を活用して、税金が使われている施設とそうでないものについて考えさせた。また、税金の必要性について考えさせるために、「税の学習コーナー（学習・入門編～身近な税金について）」のページ（図2）を活用して、公共の施設やサービスがないと、我々の暮らしにどのような影響があるのかを考えさせた。

(図1)



(図2)



(2) 「税金の種類や集め方について」（二時間）

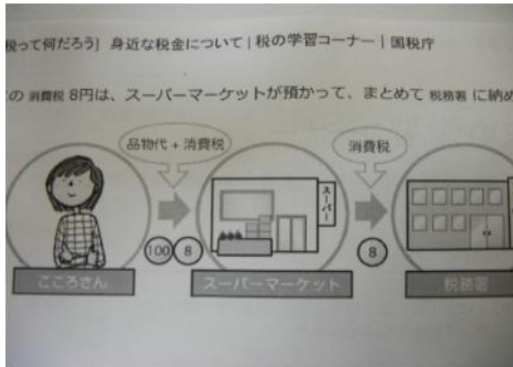
「税の学習コーナー（学習・入門編～身近な税金について）」（図3）などを見せて、税金の集め方について学習した。その他の税の種類や集め方、問題点などについては、グループの実態に応じて説明を行った。1、2グループの生徒の中には、所得を得て所得税、住民税を払うことになる生徒もいるので、「税の学習コーナー」（学習・発展編～税のしくみ）を見せて、おおまかな金額について具体的に説明を行った。

(3) 「税金の使い方について考える」(二時間)

税金の使い道がどうやって決められているかを学習した。税金の使い道は、選挙で選ばれた国民の代表者が国会で話し合って決めていることを知り、税と政治との関連性に気づかせるとともに、選挙に行くことの重要性についても考えさせた。

もう一時間は、「税の学習コーナー」内の学習ゲーム(図4)を使い、限られた財源で街に必要な施設を作るゲームを通して、税金の使い道について考える機会をもたせようとした。

(図3)



(図4)

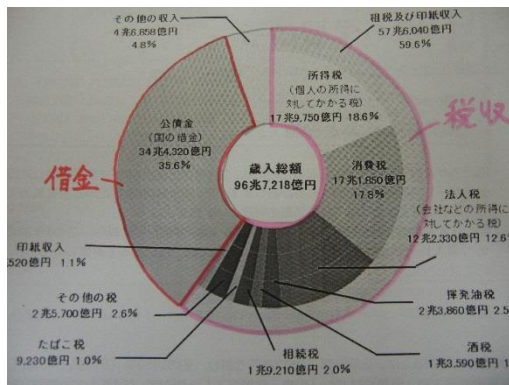


(4) 「国の財政について」(二時間)

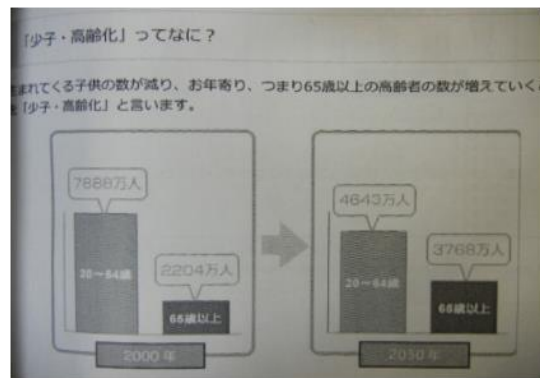
はじめに、国の歳入(収入)は主に税金で、足りない分は国債(借金)などでまかなわれていることを知らせた。(図5)

次に、高齢化社会の進展により、国の支出が増えることで、必要となる税収が増えること、結果として我々の生活に関わっては増税される方向性にあること、などを(図6)を見て考えさせた。

(図5)



(図6)



<良かった点・改善点(児童生徒の反応を含め)>

- 税金を払ったことがあるかどうかを質問した時に、「ない」と答える生徒が多かったので、(図2)を見せて、買い物をした時に払う消費税の説明をし、普段の生活の中で税と関わりがあることを認識させることができた。
- 学習ゲーム(図4)を使ったことで、生徒たちは「限られた」財源で自分の街に「必要な」施設を作ることを通して、「税金の使い道」について考えることができた。今回は一人1台パソコンを使い「自分の街」を作ったが、今後はグループワークにすることで、「税金の使い道」についてより活発な意見が出されるのではないかなと思う。
- 国の歳入のグラフ(図5)の内訳を見て、借金の多さに「やばいやん。」と感想を漏らす生徒もいた。生徒たちは、歳入に占める税収の割合を見て、税金の重要性を感じることができたと思う。

